

# 一芸に秀でる

人間誰しも趣味や特技、得意なところをもっています。そうしたところを芸というのは、大げさな表現かもしれませんが、その芸を磨こうというお話です。

ビジネスの世界で、芸の話はどうだろうかと思われるかもしれませんが、与えられた仕事一辺倒でなく、仕事に余裕を持つ意味でも、コミュニケーションに幅を持つ意味でも、趣味、特技等を大いに意識し、表現すればと思います。例えば趣味として、絵を描く、写真を撮る、ピアノを弾く、ハーモニカ・オカリナを吹く、手品をする、カラオケを歌う、ゴルフをする等々、あるいは特技・得意な事として、ペン字・毛筆が上手、歴史に詳しい、花の名前をよく知っている、着物の着付けが上手、似顔絵が上手、日本酒・焼酎・ビールの味や銘柄がわかる等々、一芸に繋がるものではないでしょうか。皆さんも経験があると思いますが、初対面の人と会った時、自己紹介や会話の場面で趣味や得意な事の話になった時、大いに盛り上がったり、気分良くなったり、共通点が見つかったりします。そうすると、いっきに距離感が縮まり、そのことがコミュニケーションに、ビジネスに良い結果をもたらすことに繋がる場合があります。又その様なことからお付き合いの幅が広がっていった経験はないでしょうか。

更に芸をただ磨くということだけでなく、そのことに資格があれば資格取得を目指す、段位があれば更に上位へ挑戦する、発表の場面があれば出展、入賞を目指す。そうした目標を持って動いていくと、同じことをやっている仲間やそのことが上手な人や、プロの人と出会う、触れ合う機会も出てくる。多方面から様々な情報が入ってきて、自分に取り込む機会が増え、新たな発見も増え、磨かれていくことになっていきます。趣味や特技が見えてくると、周囲からあの人は凄い！あの人はこの事が得意だから、きっと頼んだら、任せたら上手くやってくれと、評価、信頼が上がって来たりします。

「一芸に秀でる」と趣味・特技の世界にとどまらず仕事・ビジネスの世界にも通じます。特に高齢者・介護に携わる仕事は「人と関わる仕事」でもあり、ご利用者・ご入居者・ご家族等と関わる際のコミュニケーションにおける幅や深みが増したり、会話の引出しを増やし、より良い関係作りに繋がります。そうすることが信頼関係を築く一助となるのではと思います。



長嶺 堅二郎